

## 令和3年第8回加西市教育委員会会議録

- |   |      |                 |         |
|---|------|-----------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和3年8月24日(火)    | 14時00分  |
| 2 | 閉会日時 | 同日              | 15時28分  |
| 3 | 開催場所 | 加西市役所 1F 多目的ホール |         |
| 4 | 出席者  | 教 育 長           | 民 輪 惠   |
|   |      | 委 員             | 沼 澤 郁 美 |
|   |      | 委 員             | 楠 田 初 美 |
|   |      | 委 員             | 中 川 和 之 |
|   |      | 委 員             | 深 田 英 世 |

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	植 田 正 吾
教育委員会次長（こども園民営化担当）	
	高 倉 慧 喜
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
教育委員会課長（学校施設担当）兼施設係長	
	井 上 英 文
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
生涯学習課長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

議案第33号	加西市社会教育委員の委嘱について
議案第34号	加西市指定有形文化財の指定について
議案第35号	加西市立図書館協議会委員の委嘱について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 33 号 加西市社会教育委員の委嘱について

生涯学習課長より説明する。加西市社会教育委員に関する条例第 2 条及び第 3 条の規定により、社会教育委員に次の者を委嘱したいので委員会の議決を求める。

このたびの委嘱は、定員 9 名のうち欠員だった 1 名に対し、学識経験者としてオフィス EEE 代表、男女共同参画アドバイザーの中村和子氏を新たな委員として委嘱したい。任期は令和 3 年 8 月 24 日から令和 5 年 7 月 21 日まで。

中村氏は小学校で 22 年間勤務後、平成 11 年より嬉野台生涯教育センター及び小野市で子育て支援、男女共同参画推進、DV 関連事業を担当された。平成 27 年、小学校長退職後は、県内各市町の男女共同参画推進や子育て支援を中心に活動され、現在第 3 次加西市男女共同参画計画の策定委員長、女性リーダー養成講座ウィメンズネット加西のトータルアドバイザー兼コーディネーターを務めている。

議案第 34 号 加西市指定有形文化財の指定について

生涯学習課長より説明する。文化財保護に関する条例第 3 条第 1 項の規定により、諮問の行われた次の文化財について、加西市文化財審議委員会からの答申にもとづき市指定文化財に指定したいので、委員会の議決を求める。今回、指定する文化財は、住吉神社拝殿に掲げられている「楠公訣子図絵馬」である。

この絵馬については、先に述べたように住吉神社拝殿に掲げられている。南画家の大家、田能村直入の養子である加西出身の田能村小斎が手がけたもので、安政 6 年に奉納された。絵馬の裏書によれば、北条の知識人大野乙山の三男順之介（小斎）が、15 歳の時、直入の養子になり、そのときに描いたものである。

絵馬を奉納した経緯や関係者、絵馬制作に関わった方々の名前も記されており、北条と文化人の交友関係、特に大坂との関係を読み取ることができ、当時の北条の歴史と交流の圏域を示す歴史資料として評価されている。絵馬の指定種別については、芸術性が高い場合は「美術工芸品」、奉納行為に重点を置く場合は「有形民俗文化財」となるのが一般的だが、本件は絵馬裏書の史料的価値を最重視し、古文書等の指定と同じ種別の「有形文化財（歴史資料）」での指定になる。

## 教育委員からの意見や質問と生涯学習課長の回答

- ・私も富田地区で、小さい頃から節句祭りなどで住吉神社に行くと、本殿に向かって左側の拝殿に楠公訣子図絵馬が掲げられていたのをよく覚えている。この会議資料を見て、住吉神社に行かせてもらったが、今この絵馬は外されているのか。  
(回答) はい。先ほど申しそびれてしまったが、このたびの市指定を記念し、一般公開を計画されている。令和3年9月19日10時から15時に住吉神社拝殿において、ご説明した裏書もご覧いただけるよう特別に下ろした状態で公開を行う予定。ぜひそちらにもお運びいただければと思う。
- ・長い間、拝殿に掲げられていたので、劣化がかなり進んでいるのかなと思った。今後、保存の措置について本当に検討していただきたいと思う。これは願望である。よろしくお願ひしたい。
- ・私も先日住吉神社を拝見しに行った。絵馬は入って左の部屋に外して置いてあり、そばに透明のカバーのようなものが置いてあった。絵馬をかけていたときから、そのカバーはつけてあったのか。  
(回答) いや、そのようには伺ってはいない。
- ・透明のプラスチックのカバーのようなものがそこに置いてあったので、今後それをかけて上に上げるといったことなのか。  
(回答) 先ほどもご指摘があった点であるが、確かに金箔の剥落等が進んでおり、それについての修繕が必要だということは審議委員会でも出た。どのような方法で行うのが一番いいのかについていろいろな検討や意見を頂いているので、相談があれば住吉神社の宮司さんの意向を伺い、どのような方法ですか提示させていただく。そのうえで住吉神社さんで決定されることになる。
- ・まずはカバーをかけて風雨を防ぐということなのか。  
(回答) それについてはまだその場でも話に出ていなかったもので、未確認で申し訳ない。
- ・そばにそうしたものが置いてあったので、今からそこにはめ込むという感じでされるのか。  
(教育長の回答) レプリカを作って掲げておいて、本体はきちんと保存するという方法もあると思う。

- ・住吉神社もとても立派な建物であり、私は教育委員になって初めてすごく興味を持つようになったが、加西市にはそのような歴史あるものがたくさんあり、本当にすばらしいと思う。ただ、住吉神社の建物もかなり傷んでおり、こうした立派な物はそのまま掛ければ風雨に当たってしまうし、今後は集中豪雨も多くなると思うので、あそこに置くべきではないと思う。文化都市となれば、どこでも歴史博物館や美術館がある。やはり加西市も歴史ある文化都市として、たとえ高額になったとしても、歴史博物館なりを造ってたくさんのこうした立派なものを展示するべきだと思う。先々のことになるのかもしれないが、そうしたものを造っていただきたい。(教育長の回答) ごもっともなご意見だと思う。

- ・私が北条小学校でお世話になっていたとき、歴史ガイド隊の子どもたちが住吉神社や酒見寺なども案内をしていた。子どもたちは来られた方にこの絵図を見せて、一番強調していたのは、この絵が小斎氏もしくは順之介氏の15歳のときの作品ということだ。子どもたち自身が「こんな絵を15歳で描いたのか」という驚きや「すごいな」という感想を漏らしていたのを今でもよく覚えている。今回はどちらかという裏書の歴史的なことや特に背景的なことを中心に指定ということだが、表側も当然とてもすてきな物であり、15歳でこれだけの絵を描いた地域の人がいたということは子どもたちにとっても印象に残る。そこから自分の憧れや絵に対する思いなど、そういうような思いというのはやはり子どもたちの気持ちにも発展的な部分があるとあると思う。そうしたことから、市指定の文化財となるのはとても喜ばしいことであり、大切にしていきたい。今言われたことだが、やはり劣化というのが一番気になっていることなので、できるだけ早く修復していただけたらと思う。

#### 議案第35号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

図書館長から説明する。加西市立図書館設置条例第5条の規定により、図書館協議会委員として次の者を委嘱したく、委員会の議決を求める。任期は令和3年9月1日から令和5年8月31日までの2年間。委嘱するのは学校教育関係者2名、社会教育関係者2名、家庭教育の向上に資する活動を行う者2名、学識経験者4名の以上10名である。うち新任が2名、再任が8名である。新任は1番の吉田氏と4番の衣笠氏の2名になる。

#### 教育委員からの意見や質問と図書館長の回答

- ・設置条例や運営規則によれば、図書館協議会委員は具体的にどういうことについて協議をされるのか。

(回答) 図書館協議会の役割は図書館法に基づいており、館長の諮問機関としての役割と日々の運営に関する意見を述べる機関として位置づけされている。加西市図書館もこれに基づいて設置しており、図書館協議会を年2回開催して、その都度こちらから日々の運営の報告をして、日頃の様々な意見を頂くような会議となっている。

・例えばどういった意見があったのか。

(回答) 議事録自体はホームページに掲載している。例えば去年の2回の協議会では、委員長が図書館学専攻の先生なので、今の貸し館だけではない最近の図書館の流れをご説明いただいた。また、委員の皆さんは日頃から図書館を利用されている方なので、「このこういうイベントが良かった」とか、「もっとこういうイベントをしてほしい」といった意見を頂いているところである。

・そのように意見が出され、それが反映されて良くなったとか、一般市民から盛況があったということはあるのか。協議委員から出た意見に応じて、改善はされているのか。

(回答) 毎回いろんな意見が出るので、それに対してこういうことを行ったという話をして、さらに意見を頂いている。すぐに改善できるものとできないものがあるが、なるべく頂いた意見に対しては対応するようにと考えている。

・ぜひいろいろな意見が出て、図書館がよりいいものになるよう期待する。よろしくお願ひしたい。

## 9 議決事項

議案第 33 号 加西市社会教育委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 34 号 加西市指定有形文化財の指定について

原案どおり可決

議案第 35 号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

原案どおり可決

## 10 報告事項

### 教育長

このひとは夏休みと重なるということもあり、大変いろいろな行事があった。というのは、子どもたちがいない間にしなければならない研修会等も多々あり、夏休みだからといって事務局が暇だったわけではなく、本当に大変な思いをしてきたと思う。感謝している。

それでは、7月16日の定例教育委員会以降の活動について報告する。

まず、7月16日に播磨看護専門学校の学生から、マスク入りのマスクケース50個、生理用品50個、手作りのレッスンバッグ4個を寄附していただいた。学生さんたちがわざわざ直接教育長室まで来られて、何かの役に立てればということで、自分たちで手作りした物を寄附してくださり、ありがたく頂いた。

そして、7月19日には、第2期目の教育長任命式があった。早いもので、1年たって一応1周したところである。初年度は正直に言って「この会議は一体何のための会議なの」というようなことも多々あり、ご迷惑もおかけしたと思う。ただ、それが大体「ああこの時期にはこれを準備しなければならないんだな」というようなこともだんだんと分かってきて、物理的には少し学習効果があったかなとは思っている。その反面、マナーに落ち込むことのないよう、初心を貫きたいと自戒している。どうぞよろしくをお願いしたい。

7月25日に、女性リーダー養成講座「ウィメンズネット加西塾」第1回が開催された。参加者からは「加西市はまだまだ女性が暮らしにくい男性社会だと思う。それでも、その中で自分のできることに挑戦したい」というような活発な発言があった。子育て中の30代から少し余裕の出してきた40代女性たちなど、参加者は12名で中村和子先生の講義に熱心に耳を傾けていた。中村先生のお話は、加西市の人口推移ということから、LGBTQ、経済自立がジェンダーの基本だということなど、まず、ウィメンズのリーダー養成に必要な基礎知識というようなものを大変分かりやすくご説明になっていた。

7月26日には、再び女性団体の連絡協議会があり、加西市の各団体の女性リーダーたち、婦人会や商工会、老人会などの女性代表の方たちとお目にかかる機会を得た。実は私はそうした私よりも年上の方が多いう女性リーダーたちに対して、「どういうことをお話したらいいのかな」などと思っていたのだけれども、皆さんがそれぞれの団体の役割、責任感、テーマというようなものをお持ちで、それに沿って活動されている女性たちだった。活動が見えないので、「何にもしてないのでは」というようなことをおっしゃる方たちもいるが、短時間ながらとても中身の濃い話合いができたと思う。女性リーダーの皆さんはいろいろと言いたいことをたくさん抱えていらして、「それを今までどこにぶつけていいのかわからなかった」ということを強くおっしゃっていた

ので、「やはりその思いを形に変えていきたい」というふうに思った。詳しくは、ホームページの「教育長雑感」の中にアップさせていただく。よろしくお願ひしたい。

午後には、加古川総合庁舎での播磨東地区教育長会議に出席した。この会議は西上兵庫県教育長もご出席のもと、「高校のあり方」というメインテーマで行われた。ほかのことも話し合われることにはなっていたものの、前回の定例会でも申し上げた嬉野での教育長会議に引き続き、実は一番の重要な隠れテーマは高校の統廃合なのだなということがありありと分かるような会議であった。その中でのことを少しまとめて言えば、「端的な特色の出せない県立高校は、もう統廃合するしかないでしょう」というふうで、既に県教委の中ではそういうような方向性が出て、決められているんじゃないかというように感じられる会議の進め方であり、それに関して私は大変違和感を覚えた。

ちなみに隣におられた小野市の教育長は、「うちは小学校も統廃合はいたしません。中高についても同じです」というふうに明言され、それ以外の方々の発言とはひと味違う明解なものだった。次に、加西市の発言を求められたので、私は「先ほどから当然のように適正規模という言葉が飛び交っていますけれども、その適正規模というのはどなたがお決めになったのでしょうか。それは各地域によっても、各学校によってもそれぞれ違うと思います。各地域には長年にわたって培われてきた歴史や文化があります。加西市は、各小中学校が継承してきた歴史や文化というものも出来る限り大切にしたいと考えております。また、令和5年には100周年を迎える北条高校を市内の大切なものとして大事に守りたいと考えております」と発言をした。誰も明解な意見はおっしゃらないので、これはやはりきちんとっておかないといけないなと思ったからである。

また、会議の終盤において県の西上教育長が言われたのは、「現在、これからの社会に向けて新しい学びを模索している。その一つが文理融合のSTEAM教育。もう一つは遠隔の学校を結んで行うリモート教育。この2つだというふうに考えております」ということだった。「それぞれにももちろん問題もあるんだけど、兵庫県の教育委員会としてはその2つに大変力を入れ、活用しながら教育というものを一歩前進させたいと思っております」というようなお話だった。

会議が終わってから、会議で少しきついことを発言したので、教育長ともきちっと話しておかなければいけないと私は思い、県の西上教育長と今加西市が進めようとしているSTEAM教育についてお話をしてきた。ちょっとびっくりしたのだが、それに対して県の教育長は「実は自分たちも本当はもっとちゃんとSTEAM教育をやりたいと思っている。今のところ県立の高校ではじめているが、加西市は義務教育からSTEAM教育を推進してくださっていると聞いており、本当に感謝している」というようなことを何回もお礼と共におっしゃられた。それで、私は、「私たちはSTEAM教育がいいと思ってやっておりますので、お礼を言っていただくことではございませんけれども」と

いうふうに言いながら、結構話が弾んだ。そうした点をご報告申し上げておく。

翌日 7 月 27 日には、先ほど説明のあった第 1 回文化財審議委員会が行われた。

28 日には、播磨東地区教育委員会連合会理事会、総会、研修会がオンラインで行われた。教育委員さんたちには本当に申し訳なかったが、わざわざ教育長室に来ていただいて、この総会と研修会へ全員オンラインにて参加していただいた。

次に、29 日の定例校長会では、家庭へのタブレットの持ち帰りについて校長先生方とかなりオープンに議論を行った。実はその前の県教育長との会議で、2 学期以降に各児童に対し、家庭にタブレットを持ち帰らせようとしている市町村や学校のパーセントについて表になったデータが紹介されていた。タブレットを持ち帰らせようとしているのは、加古川市の全小中学校、高砂市の全小中学校、稲美町の全小中学校、西脇市、加東市の辺りなど、ほかにもあったと思うが、全小中学校などなどが出ている。その中であって加西市は、小学校 11 校中で持ち帰らせようとしているのはゼロ校、中学校 4 校中ゼロ校というアンケート結果を見た。私はショックを受け、「せっかく加西市はいち早く昨年に 1 人 1 台タブレットの導入を実現したのに、なぜ？」という大きなクエスチョンマークが私の中につき、大変違和感を覚えたので、それを校長会のメイン議題にさせていただいた。

これは決して加西市が遅れているからではなく、やはり皆さんも十分ご承知と思うが、実は何に関しても加西市は慎重なのである。ただ、単純に「タブレットを持って帰らせたらいいやん」というようなことはなかなかできなくて、それぞれの校長先生が「いや、例えば壊れたらどうするのか」とか、「それで何か違うことばかりしていたらどうするのか」などと種々いろいろと細々詳細に検討をされていて、別に持ち帰らせたくないということではないんだということは分かった。ただ、そのときに私が言ったのは、「タブレットは触らせて何ぼだから、やっぱり前向きに持って帰らせてほしい。それで、何か起きたらその失敗を前向きに対処することによって、ノウハウを蓄積していきませんか」というような話をした。先生方も当然前向きに考えてくださっていると今は思っている。

また、教育委員さんたちにはほとんど毎日のように集まっていたいただいているのだが、同日の夕方には、教育委員さんたちと共に学校のあり方についていろいろと協議を行った。これはまず教育委員さんたちの中で、そういう意見をオープンにフランクに話し合おうということ、これまでも何回も行っていることである。

そして、7 月 30 日には、加西市全小中学校の教職員に対する教育講演会が、総合教育センター主催で行われた。教育センターは本当に大変な準備を万端に整えてくれた。講演のテーマは「食育を通じた人間教育」で、講師は服部幸應先生であった。これについては一応「教育長雑感」にも挙げている。服部先生の講演は、大変幅広く深い内容だったと私は思う。その後、全職員の自由記述のアンケート結果を、私も目を通した。その中には「従来、自分が持っていた食育の知識の狭さというものを痛感した」

とか、「食育と SDGs がつながっていると知って本当に驚いた」とか、「やっぱり食事というものは家庭の姿そのものなのだというふうに気づかされた」などという意見が多く、出席なさった先生方も服部先生のユーモアを交えた広く深いお話に大変刺激を受けたことを実感して、この講演会を行って良かったなと安堵した。

8月5日には、元女性校長先生と現役の女性教員の先生方の何人かが、教育長室にお見えになり、フランクに皆さんが抱えている問題意識などについて話題にし、話が弾んだ。

また、10日にはさわやか市民賞、賞賜金贈呈式があり、九会小学校5年生藤原瞭希さんと北条中学校3年生藤本涼哉さんに賞賜金が贈与された。大変驚いたことに、二人ともものすごい記録を出しており、「オリンピックの強化選手になれるんじゃないか」と言ったら、「はい」と自信満々に答えていたので、これはすばらしいなと思った。

夕方には、実は富田の会館で女性管理職の集いがあり、このたび叙勲を授与された山下喜久子元校長先生の来し方のお話を伺った。現女性校長や教頭など管理職が、折に触れてこのように、オープンな情報交換を行い、管理職だけのクローズドな会にするのではなく、若い現役の女性教職員達、もちろん男性教職員が入ってもよろしいので、もっとオープンに語りあえる、交流し合える場をつくることによって、加西市の教育界がより幅広く活性化してくれることを私は強く望んでいる。それが結局は、結果的に子どもたちの利益につながると私は思っている。

そして、8月13日には「第5回加西能」が開催され、来られた方も多々いらっしやるかと思う。前夜には、実は野村萬斎さんが数時間にわたって、加西市子ども狂言塾の塾生たちに、本当に熱を入れてお稽古をしてくださった。それを私も見学させていただいたが、そこで大変印象に残ったのは、「大事なものは技術と集中力だ。ちゃんと技術を身につけること。そして、舞台上上がったら集中力だ」と発言され、子どもはせりふを覚えているので、「君たち、次々と早くせりふを言っちゃおうとしては駄目だ。君たちの段取りを見せられても、観客は楽しくも何ともないんだよ」とおっしゃっていたことである。「うわ、厳しいなあ」と思ったが、子どもたちはもう見る見るうちにうまくなっていく。そういう本質を突く言葉というのは、やっぱり子どもたちにとって大変刺さることなんだろうなと思った。

また、「学ぶ」は実はもともとは「まねする」、「真似ぶ」である。まねをするのなら、私の希望としては「できればなるべく質の高い本物のまねをしてほしい」と常日ごろから思っている。萬斎さんには、学ぶ、教えることの本当に大事な核心というものを毎年教えていただく思いがする。その晩には学校の現役教師たちも、もちろん来てくれており、人にものを教える、子どもに何かを伝えるとはどういうことなのかを学べる本当にいいお稽古だったと思う。

また、加西能当日の午前中には、観世鍬之丞先生や、ずっと市民講座を行ってくださっている光田和伸先生に玉丘古墳出土の石棺や鶴野飛行場の資料館といったところ

をご案内した。正直に言って、本音のところでは生の萬齋さんを見に加西能へ来られる方が多いのだと思う。でも、それが引き金となって多くの方が加西能を見てくださっている。人間国宝級の方々が加西市に勢ぞろいして、一度も見たことのない人や何回か見ただけの方々に、能や狂言の至芸と言っても大げさではないそういう本物の至芸を見せてくださるということは、やはり何物にも代え難い文化政策の一つではないかと信じている。だから、ご協力できることがあれば、やっぱり身を粉にしてご協力したいと私は思っている。

8月16日には、史跡玉丘古墳群整備検討委員会が行われた。

8月17日には、北条高校放送部が全国において大変良い成績を収めたため、さわやか市民賞贈呈式が行われた。

8月18日には兵庫教育大学附属小・中学校の校長先生が来訪された。実はこれまで小・中学校の校長先生は、兵教大の教授が兼任されるポストであった。しかし、今年度からは、小・中学校両校とも校長先生を公募され、最終試験で「附属小・中学校をどうイノベーションするか」というテーマの論文を出されて、公募で受かった方が校長先生になられたという。いつも申し上げていることではあるが、激変する社会にあって、むしろイノベーションというのは今や常識になりつつある。加西市の教育委員会でも、本当にもう一度前例なるものを見直し、変化をおそれず一つ一つ将来に向かってイノベートしていきたいと思っている。皆さんのご理解とご協力をお願いしたいと思う。

その午後には、加西市の教育のあり方に係る勉強会が行われた。参加された先生方は30代、40代の若手中堅であった。学校教育課はこの会を開催するため、大変苦勞をしたと思う。いろいろと感謝している。でも、我々はそうしたことは何も言っていないのだが、来られる前に、学校のあり方勉強会だと思い込んで来られた先生方も結構多かったようである。もちろんそれについては、今もう待たないということとはよくよく分かっているが、その前に「加西市の教育をどうするのか」ということに基づいて、学校のあり方を決めなければいけないというのは、ずっと言い続けてきていることである。

今回は教育のあり方に係る勉強会を行った。まず、その中で30代、40代の若手中堅の先生方が、それぞれ今の加西市の学校教育の現状を把握した上で、自分自身の今まで持って来た教育観をもう一回見直し、問い直して、「その上で、それをどう実現させるのですか」というステップまで行った。これは本当に重くて重要なテーマだと思う。皆さんが真剣に取り組んでおり、なおかつ熟議がされていたので、とても明るく楽しく取り組めて大変良かった。大変有意義だったと思っている。これはまた次に続けて行いたいと思っている。

8月22日午前には、第2回女性リーダー養成講座ウィメンズネット加西塾が行われ、拝聴をした。午後には、「人権文化をすすめる市民のつどい」に参加した。落語家でお

坊さんだった女性の講演で、大変分かりやすい人権文化のお話だったと思う。

#### 教育総務課長

令和2年度教育委員会点検評価報告書についてご報告する。

7月8日に評価委員会を開催し、倉見、押田両委員に点検評価書についてご協議をいただき、両委員より頂いたコメントを最終ページに記載している。評価委員会として倉見委員は「概ね妥当」、押田委員は「やや不適」と評価された。

コメントの内容として、倉見委員からは「コロナ禍という予期せぬ事態での評価でしたので、評価の信頼性や妥当性の観点から考えると、その判断基準について、教育委員会全体としての方針を示してもよかったのではないかと。令和3年度からは、新たな第3期加西市教育振興基本計画のもと、これを契機に“何のための評価か”を改めて考え、教育委員会の取組により市民が受ける効果がより分かるような指標の設定と、それに基づく適切な自己評価が、次年度の取組の改善に繋がっていくようになることを期待する」というコメントを頂いた。

押田委員からは「目標数値が実績数値を下回っているにもかかわらず、多くの項目で達成度が3となっているが、代替する指標や取組など、その根拠をより明確に記す必要があること。検証可能な目標値の設定については、これまでも指摘し、工夫改善された項目もあるが、目標と手段を混同した項目も残っている。第3期教育振興基本計画には目標が測定可能なものとして示されていないため、今後は教育長と教育委員、事務局において、本点検評価と関連づけながら検討されることを期待する。」とコメントを頂いた。

この評価書については、今後市長及び議会へ提出し、報告すると共に、市ホームページ等において公表する。

また、指摘された点について真摯に受け止め、十分な改善を図りたい。具体的には、今年度始まる第3期加西市教育振興基本計画をもとに、各指標の見直しと分かりやすい指標の設定に努め、数値目標の達成がそのまま評価に直結するよう留意し、取り組みたい。

#### 教育委員からの質問と教育総務課長の回答

- ・ 押田委員の評価で「新たに第3期教育振興基本計画から、今後教育長と教育委員、事務局において、点検評価と関連づけながら検討されることを期待致します」という部分がある。いつも私たちはできたものをそのまま頂いて評価することになっているが、実際にこの点検評価はどのように目標が設定されて、どういう工程で評価がされているのかについて教えていただきたい。

(回答) 昨年度までは目標設定については各課で行っており、事前に教育委員会全体

で突合せは行っていなかった。最終的に年度末において各課で結果を取りまとめたので、どうしても後ろの評価だけが中心になってしまっていた。ご指摘の内容からすると、当初の設定がきちんとされなければ、それを毎回ずっと同じ手順を踏んでしまい、なかなか変えられないということもあった。それで、今回を契機としてももちろん年度末の評価も行うのだが、当初の目標設定については、各課からそれぞれ取りまとめた取組内容や目標値の設定がこれでいいのかをしっかりとチェックした上で、それから年度末の評価へつなげていけるように改善する方向で考えている。

- ・教育委員も「関連づけて」という書き方だったら、途中で「こういう目標でやっていきたいんですけど」というような協議も出てくるのかなと思った。やはりそこが変わってくるところになるのか。

(回答) これまでは各教育委員に最後の評価のところだけを見ていただくようになっていたが、今回、目標設定のところも含め、年度当初に「このように取組を進めます」とお知らせする工程を中に含めていくことが、これからの改善につながると思うので、その方向で検討させていただきたい。

- ・倉見、押田両先生もコロナ禍ということを相当に気にしながら、それでも目標に対して講座数の減や人が集まれなかった状況をどう評価していくのか、部分によっては指標を書いたところ、つまりあくまで、もともとの指標に対してどういう評価にするか迷われたのだと思う。でも、今年も半年近く過ぎ、コロナはこういう状況なので、やはり教育委員会全体として少なくともコロナ禍においてどのように目標を考えるのかということは統一しないといけないのかなと思う。それから、第3次振興計画が始まったところであるが、先生の言われた「振興計画に数値上の目標がない」ことについては、次の振興計画に向けて評価的な部分もここまで来たらやはり評価をして、次の振興計画に活かしていくことである。当然、第3次振興計画の最初の部分で2期の点検評価を受けてという項目があるのだが、それをより明確にしていかなければいけないのかなと改めて感じたところである。これは感想である。

(回答) 「教育振興基本計画の中に5か年の目標の数値設定がない」というご指摘があったので、今年度からの改善として、点検評価において振興計画の期間に見合った5か年の数値を盛り込んで進めていくことも必要かなと考えている。これまでの点検評価では前年と今年の実績だけだったが、今年度からは5年先を見据えた目標の設定など、様式にも工夫をしていきたい。あと、達成度の評価がなぜ2なのか、3なのかという理由を書く欄を設けることが、その評価理由を分かりやすくなる一つの方法だと考え、その点についても様式の改善も検討しているところである。

学校教育課長

小・中・特別支援学校における学校教育活動等について報告する。

新型コロナウイルス感染症の拡大が第5波を迎え、まもなく始まる2学期について、大変憂慮しているところである。特に2学期は大きな行事がたくさんあるため、かねてから申し上げているように、その行事に対して「その学年でしか学べないこと、体験できないことをできる限り実施していく」という方針のもと、児童生徒や保護者・地域の方々の声をきちんとキャッチしながら、学校と相談の上、方向性を示していくことができればと思っている。

昨年度は、誰も経験のしたことのない対応の連続だったので、どちらかというとも他市町の情報を得ながら、市内全校が足並みをそろえていくという方向性で進んできた。ただし、今年は児童生徒の安全・安心を最大限に保障できる手立てを講じた上で、学校規模や学校の実情、地域の特徴、そして何よりも目の前の子ども達をどう育てていくかという校長の経営方針の下、各校での独自判断の部分をも大切にしていきたいと考えている。

まず、運動会・体育大会については、別紙の日程で開催予定。ただし、日々新型コロナ感染状況が変化しているので、これはあくまでも16日現在ということでご了解いただきたい。中学校は緊急事態宣言下での開催となるため、感染症拡大防止策として無観客開催も視野に入っていたが、さきの加西市新型コロナウイルス感染症対策本部会議の協議にて「運動会は保護者も見たいだろう」とのご意見を頂き、保護者を中心に観客を迎えつつ、制限をしながら開催する予定である。ただし、繰り返しになるが、学校の規模等を見て学校で判断してもらっており、今日時点で少し大きな学校では無観客も視野に入ってきている。また、正式に決定したらご報告したい。

教育委員の皆様には既にお伝えしているように、民輪教育長、西村市長と共に、来賓ではなく激励をされる立場で各学校を可能な範囲で見ただけだと考えている。よろしくお願ひしたい。一覧表の時刻等をご参考いただきたい。来賓としての案内状は各学校に任せており、なくても委員さんは激励に来られる場合があると校長には了解を取っている。その辺りは委員の皆様のご都合に合わせてよろしくお願ひしたい。

次に、修学旅行について。加西特別支援学校中・高等部は、9月13日から15日の予定を11月22日から24日に変更した。場所は伊勢方面で変更なし。中学校については、10月1日から3日実施が2校、10月3日から5日実施が2校で、前回の報告どおり場所を東京方面から長崎方面へ変更した。小学校は今のところ全校とも10月26日、27日で、以前の報告のとおり計画の変更はない。現時点では、緊急事態宣言が解除されるという想定の下、小中学校が実施に向けた計画準備を進めている。ただ、受入れ先府県の状況や旅行社からの情報を得つつ、どうすべきかを本当に悩みながら計画を進めているところである。中学校については、9月15日前後に保護者説明会が開かれるので、その辺りには一旦その時点での結論を出せればと考えている。なお延期や中止の際は、昨年度の定例教育委員会で定められた修学旅行キャンセル料についての規

則のとおり市で経費を補助する方針であり、これについて保護者に通知をしたいと思っている。ご承知おきいただきたい。

次に、部活動の状況について。当初、近隣市町等の練習試合も含め実施だったが、新知事の方針の下、学校周辺のみの実施が強く要請されたので、急きよ、学校周辺のみで開催で練習試合等は行っていない。しかし、全国大会につながる公式戦については、市教委とも相談しながらあるいは近隣市町の状況も考えながら、実施できるという方針で調整をしている。

次に、市教委の事業について報告並びに依頼を申し上げたい。市指定研究会については昨年度中止したが、今年は規模を鑑み、別添行事予定にあるとおり 10 月 22 日に富合小学校、11 月 2 日に加西中学校、11 月 11 日に下里小学校が開催予定。教職員の資質向上の機会としてセンターの研修講座と共に重きを置いている事業なので、可能な限り開催をそのまま進めたいと考えている。今のところ教育委員の皆様にもご参加いただければと考えているが、規模等を考えるため、また、後日正式に決定しご連絡させていただく。

次に、教育委員の計画訪問について、2 学期にあと 2 回、9 月 29 日の北条東小、富田小、北条東こども園、10 月 13 日の北条小、北条中、北条ならの実こども園を残している。緊急事態措置の状況なども鑑みながら、今のところできる限り実施の方向で考えており、よろしくお願ひしたい。

夏休み後半から児童生徒、保護者、教職員と今後の新型コロナウイルス感染症の感染に不安を覚える事案が実は増えてきている。冒頭では「その学年でしか学べないことを、できる限り実施していく」と申し上げたが、やはり校長会と連携を取りながら、子どもたちや教職員の安全、安心を第一に考え、市教委で判断をしてまいりたいと考えている。

最後に、ワクチン接種について報告する。こども園、学校関係者の優先接種については、8 月 2 日に希望者への接種を終了した。さらに、本日より 12～15 歳の児童生徒へワクチン接種券が郵送される予定。子どもたちへの感染の拡大、家庭内の感染の増加などを踏まえ、加西市では小学 6 年生のうち誕生日が来た子どもたちから順にワクチン接種を受けられるようにしている。現時点で 12 から 15 歳の子どもたちへ一斉に配付されるが、例えば今日、誕生日の子どもは来月に接種券が郵送される。子どもたちもワクチンが受けられるようになったので、ワクチン接種対策室からは保護者に対して接種奨励を行っていききたいという希望があり、市教委と学校が協力しながら接種の奨励を進めてまいりたい。

#### 教育委員の意見

- ・ 去年は初めてのコロナ禍で右往左往され本当に大変なことだったと思う。今年は一

応去年のいろいろなことを踏まえて、それを土台にしながら考えてくださっているのは本当にありがたいことだと思う。また、学校の経営方針や地域等を配慮して、その学校ごとに対応するよう進めてくださっていることに本当に感謝する。ワクチンについては、今日発送されるとお聞きして少し安堵した。ただ、近隣でワクチン接種が行われているところであっても、なかなかパーセンテージ的にはあまりたくさん接種が行われているようではないので、できるだけ奨励して進めていっていただきたいと思う。まだまだコロナはどのように変化していくのか分からないので、その都度大変なご苦勞をお願いすることになるかもしれないが、今後ともよろしくお願ひしたい。

- ・併せて、子どもたちにも感染が広がっているという全国的な状況の中で、コロナ感染が怖いから学校へ行きたくないという子どもたちがいるかも分からない。全国的にそうした生徒は欠席扱いでなく、出席に準じてと言われているが、夏休みが終わり2学期の学校再開に向けて、子どもたちの不安を本当にできるだけ取ってやりたい。また、保護者への十分な説明も必要な時期になっているかと思うので、校長先生方も当然配慮していただいていると思うが、その点もよろしくお願ひしたい。

#### こども未来課長

5月定例教育委員会でもお伝えしたが、令和3年度加西市子ども・子育て会議委員について報告する。

5月には、区分2子ども・子育て支援に関する事業に従事する者として、新たに公立園長の河原氏が着任された。今回は、区分3子ども・子育ての支援に関する学識経験者として、以前は社会福祉協議会参事井氏が委員だったが、退職されたので、今回、日ノ本短期大学と兵庫短期大学にお願いをしている。この2校と加西市は、今年度新たに包括連携協定を結び、加西市としては専門家の意見を具体的にお聞きできる関係になったため、この2つの大学に依頼してそれぞれ選出していただいた。任期は6月から。

参考だが、子ども・子育て会議は10月18日と令和4年2月17日に開催予定。子ども・子育て会議は、主に子ども・子育て支援事業計画に基づいて毎年度こども園の利用定員について協議をする場として設定されている。10月の子育て会議では、令和4年度認定こども園の申込みについて、北条東こども園民営化の状況について、また、未来型児童館の検討状況について協議いただくことになっている。2月の会議では、来年度新たに募集をする方向で進めている小規模保育所設置運営法人についての報告を議題に予定している。それから、民営化の報告と児童館の検討状況というような議題で進めていきたいと考えている。

次に、加西市家庭的保育事業等の認可に関する審査会委員について報告する。家庭

的保育事業等については、小規模事業保育所の認可は市が行うことになっている。その認可の際には、児童福祉法により専門家の意見を聞く必要があり、新たに審査会を設置した。そして、本年度10月開園予定「愛の光ナーサリー」について審査会が行われた。

審査委員については、まず、子ども・子育て支援に関し学識経験のある者として、子ども・子育て会議から先ほどの田中教授、勝木学長、藤原教授に委員をお願いしている。また、子ども・子育て支援に関する事業に従事する者として、公立園代表園長河原先生をお願いした。そして、児童の保護者を代表する者として、加西市民生委員、児童委員協議会会長の下村会長をお願いをしている。保育認定については民生委員から証明を頂くことが多いので、保護者を代表する意見が聞けるということで、下村会長をお願いした次第である。

今年度開園の「愛の光ナーサリー」については、8月5日に審査会を開催、8月17日に認可通知を出し、設置日は10月1日予定。

来年度は「エクシオジャパン」という会社が小規模保育所「サンライズキッズ」を設立予定としている。11月30日に審査会を開催し、年内に認可通知を出し、設置日は来年4月1日という予定で進めてまいりたいと考えている。

#### 総合教育センター所長

令和3年度第1回総合教育センター運営委員会について報告する。

7月12日、総合教育センターにおいて、運営委員と教育長、センター職員の計10名出席の下、センター運営委員会が行われた。センター職員からは、事業概要、教育推進・育成支援の取組現状と課題について、重点事業である「教師の指導力向上」「小中連携教育の推進」「いじめ防止やネットトラブル等への対応を中心とする生徒指導」「不登校に関する未然対策と支援の推進」に関する内容を中心に説明を行い、その後、総合教育センター事業運営等の意見を頂き協議を行った。資料に会議録を掲載している。

出された意見の主な内容としては、幼稚園がこども園となり、保護者にとって預かりのイメージが強くなったため、就学前教育、つまり幼児教育の意識が低下したこと、また、教育の基本は家庭であり保護者の教育力が必要であること、急速に変化する最先端の教育への対応、貧困や虐待といった複雑な課題を抱える家庭の問題が主な話となった。これらの内容から、改めて総合教育センターの担う役割が重要であることを再認識する機会となった。

教育委員の意見や質問及び総合教育センター所長の回答

・「この場にこども未来課がないが、縦に全部つながっていかないといけない」とい

うような意見があり、私もそうかなと思ったところである。また、次回に向けて少し考えていかないといけないと思う。やはり教育の連続ということを目負して掲げている中で、小中学校にはそれがあるが、こども未来課もセンター運営委員としてでなくても出席したほうがいいのではないかと思う。

(回答) ご意見に感謝する。検討していく。

(教育長の意見) こども未来課はいろいろな意味で教育の最前線で大事なところであるので、もちろんほかが大事でないということではないが、前向きに検討していただきたいと思う。

- ・「保護者の教育力について」のところ、やはり地域、家庭、社会の3つが一体となってというのがあり、私も恥ずかしながら家庭教育の部分が分かっていないというのが実情である。こういう意見が出ているので、家庭教育を広めてというか、各保護者に家庭教育とはこういうものやというような講演会まではいかないにしても、そういったものを実施しないととけないのではないかと私はこれを見ていて思った次第である。これは自分の意見なのだが、家庭教育のほうに力を入れていったほうがいいのではないかと思った。総合教育センターとして、家庭教育について何か考えていることはあるのか。

(回答) 運営委員会の中でも出ていた話だが、先ほど申し上げたように、家庭教育ということ以前に忙しくて余裕がない家庭が多く、以前は幼児教育、幼稚園という意識があったが、こども園では保護者も自分たちは共働きで「預かり」という意識が高い。どちらかといえばどんな教育をしてもらっているかというより、どれぐらい預かってくれるのかというほうに需要が高まっている状況がある。その中でセンターとしても様々な研修会とか、各学校としても参観日にあわせて講演会などを企画・実施するのだが、どちらかという我々が聞いてほしい家庭や厳しい状況にある家庭ほど参加が難しいという。また、それが子どもに返ってきて、負の連鎖がずっと続いているというのが現状であり、運営委員会の中でも「なかなか難しいな」とか、「何かいろいろなアイデアは出していこうと思うのだが、ハードルが高いな」という話が出ていた。

- ・教育に対してはいろいろと目を通すなど勉強をしてきているつもりだが、各保護者も「家庭教育とは」というところはやはり聞きたがっているんじゃないかなと私は思う。今、連合PTAではインターネットのことをずっとやっているが、それを少し試行改良して、家庭教育とはという基本からやってもいいんじゃないかと思った。そうすることで、各家庭を回るとまではいかないが、少し知識を配付できたら、「あ、こういうもんなんやな」と思っただけなのではないか。今、コロナで大変かも分からないが、一度趣向を変えて、「家庭教育とは」というテーマでやっては

どうかと思うところである。どうだろうか。

(回答) 聞いてみよう、参加してみようと思える魅力あるもので何か考えてみたい。

- ・学校で言えば、総会が終わってから何か大事なものを挟む工夫で、保護者の出席率も結構高いのでできるのでは。中学だったら総会の後に、1年生はこれ、2年生はトライやる・ウィークとか、3年生なら修学旅行や進路指導という話を入れているので、総会であればほぼ100%の出席率である。だから、それに追随するような仕方で行えば、結構参加するんじゃないかと思う。今、コロナで総会ができない状況なので、難しいところである。

(回答) 市内各校、同じような仕方をしたり、事前にPTA本部役員と相談したり、何とかいろいろな方法を考えて押さえてもらっていると思う。

- ・2月の参観日の後にやるのだが、おっしゃるとおり参加は全然な状況である。その辺もコロナで難しいところだと思う。よろしく願いたい。

- ・参観日について、ここに「参観日を日曜日などにして、保護者と学校の接点を増やせたらと思う」と書いてあるが、今、親御さんたちは忙しい方が多い中、平日の参観が増えてきているようである。参観日を平日にするというのは、教職員の働き方改革の関係なのか。

(学校教育課長の回答) まず、参観日はPTAと学校が協議して決める。それぞれのPTAの考えを反映しつつ、もちろん学校の希望も言いながら、年間に平日で何回あるいは休日で何回というふうに決めているので、事務局として全ての実情を分かっているわけではないが、教職員の働き方改革とは関係ないと思う。現場でも働き方改革で参観日は日曜日にしましょうというのではなくて、むしろ委員が言われたように保護者が来やすいのかということが一つある。それから、学校で苦慮するのは、例えば日曜日に参観日を持つと、平日の月曜日に代休を持たないといけない。そうすると、今は学童も充実しているのだが、そうしたご家庭ばかりではないので、小さい子どもを独りで家に残すよりは、日曜日きちんと休んで平日に授業参観するほうが、保護者が仕事に出やすいという状況もある。その辺りはPTAの情報を得ながら話をしている。そういうふうに捉えていただきたい。

- ・そうすると、参観日が日曜よりも平日のほうが出席率は高いということか。

(学校教育課長の回答) 出席率は少し別の話になると思う。やはり日曜日を参観日にするほうが出席率は高いので、そこはどちらを取るかで学校が苦慮しているところである。例えば、年度末の参観は土曜、日曜日にすることで、保護者の皆さんに1年間の成果のお話をしたいというふうに考えている学校もあるし、全参観日を週休

日である土曜、日曜にしている学校も実際にある。その辺りはPTAと協議をして意見を頂きながら行っているので、地域の状況にもよるのだと思う。

- ・加西の保護者は平日の参観日を望んでいるということか。  
(学校教育課長の回答) いいえ。例えば私のいた学校では全部週休日に行っていたので、そういう学校もあるし、平日を望まれる学校もあるのではないかと思います。
- ・加西市は、全ての参観日が平日というわけではないのか。  
(学校教育課長の回答) そうではない。学校ごとなので、例えば私が前任でいた日吉では、参観日は全部土日のどちらかで行っていた。  
(教育長の回答) 加西市が参観日を決めているのではないと思う。
- ・割と平日の参観日がどこでも多いなと思っていたが、学校によって違うのか。  
(学校教育課長の回答) 平日の参観日が多いということではないと思う。
- ・平日の参観日が多い学校は、できたら年に何回か週末に行ったほうがいいのではないかと思います、それもPTAにご相談ということか。  
(学校教育課長の回答) そのとおりである。
- ・やはり事前に校長先生にいろいろと相談されている。出席率から見たら、当然土曜日のほうが圧倒的に多い。平日オープンスクールをすると、ほぼゼロに近いが、土曜日に行くと出席率が六十、七十%に上がるので、善防中学の参観日はほぼ土曜日ばかりである。  
(回答) どの学校も参観日は基本、土日になっていると思う。平日におこなっているのは、今言われたようにオープンスクール期間中に設定した参観日であることが多いと思う。

#### 1 1 協議事項

なし

#### 1 2 教育委員の提案

なし

#### 1 3 今後の予定について

- ・令和3年第9回定例教育委員会 9月27日(月) 14:00～1F多目的ホール
- ・令和3年第10回定例教育委員会 10月19日(火) 14:00～5F大会議室

- ・第2回総合教育会議 10月19日（火）定例教育委員会後に開催予定

#### 14 その他

- ・今日の定例教育委員会での話を今まで全部を聞いてのことなのだが、本当にコロナが大変な状況なので、学校も大変であるし、教育委員会の皆さんも大変だと思う。本当に日々刻々と情報が変わってきたり、状況も変わるので、やはり迅速な判断が必要というか、学校が不安なときは教育委員会に相談をしたり、当然中学校長会や小学校長会との連携もあると思う。本当に世の中がこんな状況なので、先生方には無理をされないようにと思っているのだが、場合によっては時間をかけた議論が必要な場合も出てこようかと思う。皆さん、十分に体に気をつけて行っていただきたいと思う。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和3年8月24日

出席者

(出席者署名)